ナノ細孔をもつ光および水素化触媒の構築と 地球環境改善への展開

神奈川大学理学部 森 和亮 神奈川大学理学部 加藤知香

1: 緒言

不飽和炭化水素の水素化は重要な工業的プ ロセスの一つである。 これまで様々な水素 化固体触媒が報告されているが、分子レベル での活性点構造の制御、不均一系水素化触媒 反応での構造と反応性との相関については未 だ不明瞭な点が多い。一方、我々はこれまで、 フマル酸などのジカルボン酸を配位子とした ロジウム(II)錯体が酢酸銅(II)一水和物型二核 構造をとり、これが積層することにより均一 な一次元細孔を形成することを見出してきた Figure 1. Deduced molecular structure of [Rh2MTCPP]

[1]。また、 最近ではポルフィリンを含むテ



 $(M = H_2, Cu^{II}, Ni^{II}, Pd^{II}, Pt^{II}, Rh^{III})$

トラカルボン酸ロジウム(II)錯体がオレフィンの水素化に対し高い触媒活性を示すことを 見いだした[2]。本研究では、金属ポルフィリンを含むテトラカルボン酸ロジウム(II)二核 錯体(Figure 1)に注目し、Cuⁿ, Niⁿ, Pdⁿ等の種々の金属を配位した金属ポルフィリンで架橋 されたロジウム(II)錯体の物性、水素化触媒活性について調べた。またポルフィリン中心 金属と二核ロジウムサイトとのバイメタリック効果について検討したので報告する。

2. 実験

酢酸ロジウム(II)二量体二水和物とH2TCPP (4,4',4",4"'-(21H,23H-porphine-5,10,15,20tetrayl tetrakis benzoic acid), Cu^{II}TCPP [3]、 Pd^{II}TCPP [4]、Ni^{II}TCPP [3]のメタノール溶 液を窒素気流下、オートクレーブ中で、180℃に加熱することで紫色の粉末微結晶を得た [2]。同定は元素分析、TG/DTA、磁化率測定、表面積・細孔分布測定を用いて行った。 窒 素ガスによる吸蔵量測定はFaraday型磁気天秤を用い、圧力(20 torr)、温度範囲(77-250 K) で行った。水素化触媒反応は閉鎖循環装置を用いて行った。分析はGC (Porapak Q)で行っ た。

3.結果と考察

Arの等温吸着測定から得られた表面積と細孔径、液体窒素温度でのN₂の等圧吸着測定 から得られた最大吸蔵量をTable 1に示す。Rh₂[MTCPP]はロジウム原子1 mol当たりの表 面積が先に報告したフマル酸ロジウム(II) [Rh(f)] 52×10⁻³ m²やテレフタル酸ロジウ ム(II) [Rh(t)] 125×10⁻³ m²に比べて最大約3. 8倍になった。また、 液体窒素温度でロジ ウム原子1 molあたり最大2.0-2.9 molの気体 を吸蔵し、[Rh(f)] (0.89 mol)、[Rh(t)] (1.11 mol) の約2-3倍の吸蔵量を示した。このこ とから、配位子にポルフィリンを含むカル ボン酸を用いることでロジウム原子当たり の表面積と気体吸蔵量が向上することが分 かった。220 Kでのプロペンの水素化反応 の経時変化をFigure 2に示す。前処理は室



Figure 2 Time course for hydrogenation of propene catalyzed by $Rh_2[MTCPP]$ at 220 K

温で真空排気を行った。生成物はプロペンで選択率は100%を示した。反応初期から誘導 期は観測されず、Rh₂[PdTCPP]については15分後に転化率100%を示した。TOFは12.8×1 0^{-4} mol/g·s (after 15 min)を示し、以前に報告したRh₂[H₂TCPP] 0.06×10?4 mol/g·s (after 180 min.)と比べ約210倍高い触媒活性を示した。活性序列はPd > Ni > Cuとなった。また、 Rh₂[H₂TCPP]と金属塩化物の物理混合物は低活性を示し、水素化反応に対するポルフィリ ン環中心の金属の効果は著しかった。

Complexes	Surface Area(m ² /g)		Micropore	Pore size (Å)	Amount of adsorbed Na
	BET	Langmuir	Volume (cm ³ /g)		
Rh ₂ [H ₂ TCPP]	339(168) ^a	416(206) ^a	0.14	6.0	2.9 ^a (5.7) ^b
Rh ₂ [CuTCPP]	373(197) ^a	456(241) ^a	0.16	6.1	3.2 ^a (6.4) ^b
Rh ₂ [NiTCPP]	299(157) ^a	361(190) ^a	0.12	6.2	2.4 ^a (4.8) ^b
Rh ₂ [PdTCPP]	318(174) ^a	387(212) ^a	0.13	6.1	2.5 ^a (5.0) ^b
Rh[f]	241(52) ^a		the first <u>set of the set</u>	5.4	0.8 ^a
Rh[t]	468(125) ^a	595(159)ª	0.20	5.7	1.4 ^a

Table 1. Microporosity of $Rh_2[MTCPP]$ obtained by Ar adsorption, and maximum amount of adsorbed N_2

^a[(×10³m²/mol of Rh)], ^bmol/mol of Rh, ^cmol/mol of porphyrin.

4. 参考文献

[1] W. Mori, S. Takamizawa, H. Hoshino, H. Tanaka, M. Kinoshita, D. Yamaguchi and T. Sato, to be published.

[2] T. Sato, W. Mori, C. N. Kato, T. Ohmura, T. Sato, K. Yokoyama, S. Takamizawa and S. Naito, Chem. Lett., 32(9), 854 (2003).

[3]R. F. Pasternack, L. Francesconi, D. Raff, and E. Spiro, Inorg. Chem., 12(9), 2606 (1973).

[4]A. D. Adler, F. R. Longo, F. Kampas, and J. Kim, J. Inorg. Nucl. Chem., 32, 2443 (1970)